

## 大和市協働推進会議・大和市民活動推進補助金選考委員会

## 協働事業・市民活動推進補助金事業 事業報告会&amp;説明会



2005年4月24日(日)13:00～

参加者数 約90名(協働推進会議、市民活動推進補助金選考委員、協働事業者、行政職員 ほか)

晴天に恵まれた24日、日曜日。第2回目の協働事業報告会&説明会と、初めての市民活動推進補助金事業報告会&説明会が行われました。

協働事業報告会では、03年度提案事業と04年度提案事業について、協働事業として事業を行った成果などが報告されました。また、市民活動推進補助金事業報告では、補助金を充てた事業内容についての説明とその成果についての話がありました。

今回の「協働事業・市民活動推進補助金事業 事業報告会&説明会(以下、報告会&説明会)」の目的は、協働事業によって達成できたこと、また補助金を得たことによって可能となったことを実際に活動されている方々から話をうかがうことにあります。しかしそれだけではなく、それをもとに参加された方々との意見交換やネットワークづくりに役立てていただきたいという思いがあります。

さらにこうした機会は、よりよい協働事業や市民事業の実現に向けて、共に学びあえる場として機能すると考えています。

さて、ここからは報告会&説明会で発表された概要をお伝えしていきます。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝ ステップ1:はじめに ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

### 報告会&説明会スタート

報告会&説明会は大和市協働推進会議(以下、推進会議)の小原委員の司会進行により始まりました。

### 当日のプログラムの説明

市民活動課・小山さんから、今回の報告会&説明会の目的とプログラムの説明がありました。

報告会については、提案者と市の担当者から報告をいただくという順番です。参加者の方々には報告の間に、事業に対するアドバイス・メッセージを付箋紙に記入してもらい、その付箋紙をボードに貼っていきます。のちに、質問・意見・感想についての時間が設けられています。記入する内容は、アドバイス・メッセージのほかに、事業の報告番号、記入された方の名前となっています。もう一つの主題である説明会は、報告会のあとに行われることになっています。



＝＝＝＝＝＝＝＝＝ ステップ2:協働事業報告(パート1) ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝



## 推進会議代表からの挨拶

2005年度から推進会議の代表は渡辺精子委員が務められることになっていますが、所用により欠席となりました。

代わって前代表 林委員から挨拶がありました。

- ・今回は03年度と04年度の協働事業の提案者に来てもらっている。03年度の協働事業提案者に来てもらったのは、予算措置が必要なものは次の年に予算化されるため、事業化が次年度になるという理由からである。結果として2年間の経過を見ることとなった。
- ・市民からの期待、行政からの期待でどのように実現していったか、考え積み重ねが行われた2年間であったと思う。
- ・昨年(04年)から基金事業(市民活動推進補助金事業)がスタートした。基金を活用することにより、市民活動が協働事業へと発展する可能性がある。相互に学びあうだけではなく、アドバイスやメッセージを書いてもらって、それが新しい交流になればいいと思っている。

## 新しい推進会議委員の紹介

2005年度から6人の新しい推進会議委員が加わりました。

- ・大野委員、木之下委員、小原委員、杉山委員、玉木委員、筑地委員
- ・熊谷委員(行政)、八木委員(行政)

## 04年度の個別報告スタート

まずは、04年度の事業報告からスタートです。

推進会議・百瀬委員がファシリテーターを務めました。

### H16-1「いざという時のお隣近所」

**提案者:** やまと災害ボランティアネットワーク

**市の担当:** 防災対策課

(提案者)

- ・チラシの作成、配布により広報活動を行った。
- ・個人宅では、「防災まめ知識」「避難用テント張り」「家の中の危険の指摘」などを行うことができた。また、マンションなどの集合住宅には年度内に二回、防災の働きかけなどを行った。

(防災対策課)

- ・チラシ配布の協力、広報・PR活動、宿泊体験に資材の提供を行った。
- ・反省点としては、人的な協力ができなかったことがあげられる。理由として、去年は災害に見舞われた他県での支援に割くことになったためである。

### H16-2「悪い大人に負けないための法律講座」

**提案者:** 神奈川県行政書士会 大和・綾瀬支部

**市の担当課:** 教育委員会指導室、青少年センター

(提案者)

- ・渋谷中学の2クラスで社会科の時間を使い、「悪い大人とは」という題材でワークショップ形式の講座を行った。
- ・青少年センターでは、子ども会の協力により「代表役員会」に参加し、親御さんに架空請求などについて



話を聞いてもらった。(対大人にもプレ講座を実施)

(教育委員会指導室)

- ・ 渋谷中学での講座はいい事例になったと思う。
- ・ 外部の教育力の活用は有意義である。
- ・ しかし、カリキュラムは各学校長の裁量であるために、情報提供など間接的な支援・サポートを行っていききたい。

(青少年センター)

- ・ 子ども会連絡協議会の役員会で講座を開くことができた。これを徐々に進めていきたい。役員の入替えもあったので再度行いたい。



### H16-3「CAPプログラム提供事業」

**提案者:** NPO法人 やまとCAPひまわり

**市の担当:** 教育委員会指導室

(提案者)

- ・ 大人・教職員・子ども(10クラス)のそれぞれ3つのワークショップが開催できた。負担金は、市民活動課とCAPで負担した。
- ・ 行政担当のどことつながりを持てばいいのかがわかったので、今後につなげたい。
- ・ ただし、教育委員会が担当であったため、大人ワークショップを行うのは難しいということがわかった。

(教育委員会指導室)

- ・ 社会情勢を背景に、非常に意義のある事業であったと思う。
- ・ 教育課程の中での実施という、学校長の裁量になるため難しい問題があるということと、有償であることの難しさもある。
- ・ 06年には教職員研修での活用を考えている。

### H16 - 1 ~ 3の質疑応答

< H16 - 2に質問 >

Q: 市子連をなぜ選んだのか。

A: 中学校からはじめたが、小学生も対象にしたいということで、子ども会に話をした。

Q: 参加した子どもの反応は。

A: これから、社会科の先生より感想をもらう予定。基本的には好評であったように感じている。具体的な相談をしてきた人もいた。

< H16 - 3に質問 >

Q: PTA主催で単体のCAPプログラムが行われた一方で、市として協働で行ったりもしている。協働事業のものとそうでないものがあるのか？

A: 学校長が決めることになっているため、個別の事業を協働で行うのはなじまないのではないかと考えている。最終的には、学校の判断であるということ。

PTA、社会教育、個別の形態が考えられるが、それぞれがCAPプログラムを実施することについては、教育委員会としては問題ない。

意見: お金の出し方は整理すべき。



**H16-4「大和市男女共同参画に関する市民意識調査」****協働事業者: 聖セシリア女子短期大学****提案した市の担当: 市民活動課**

(市民活動課)

- ・平成17年3月に報告書が完成し、事業は終了した。会議は計9回行った。
- ・学生の協力も得られた。
- ・反省点はもう少しオープンにできなかったということである。
- ・中身については、結果として回収率が伸びなかったことがあり、質問数を減らすとか先生方ともしっかりと協議をすべきであった。
- ・地元資源(大学)と協働できたことは意義があった。
- ・今後新たな調査を始めるにあたって、いろいろな視点を持つようになった。
- ・報告書を今後活用できるようPRを進めていきたい。

**H16-5「協働の拠点運営事業」****協働事業者: 協働の拠点運営委員会****提案した市の担当: 市民活動課**

(事業者)

- ・センターとして何をやっていかなくてはいけないのか、やっと中身が固まってきた。
- ・市民の思いを吸い込み広げていく集散装置だと思っている。
- ・透明なプロセスに協働事業とした意味がある。



(市民活動課)

- ・拠点部会 ワークショップ 拠点準備会 拠点運営委員会と参加を拡大してきた。
- ・昨年度10月30日に大和市民活動センターがオープンした。
- ・広報部会・交流部会・相談部会・研修部会を立ち上げて、具体的な検討をはじめた。

**H16 - 4 ~ 5 の質疑応答**

&lt; H16 - 4 に質問 &gt;

Q: 意識調査をどういうところに役立てたいのか。有効回答のなかにセシリアの学生のサンプルが多く含まれているのではないかと。

A: 男女共同参画プランの第2次実施計画の基礎資料として役立てる。第1次するときになかった調査内容もあり、新たな課題が揃ったと考えている。また、市民にお知らせし、意識の啓発に努めたい。

全体の調査にはセシリアの学生は入っていない。別に集計している。

Q: 2,500票という根拠は。地域差があるのではないかと。

A: サンプル数の設定は難しいものがある。回収数は統計学上、問題はないということだ。地域差については、各地域からまんべんなく抽出し、調査を行っている。

Q: セシリアの先生の感想は。

A: この事業は地域に貢献したいという思いから受けたものだ。

1次計画で漏れていた問題を2次に生かすことができたのではないかと。

学生の意識がわかったこと、市民の意識を知ることは役に立ったと思う。



＝＝＝＝＝ ステップ3:協働事業報告(パート2) ＝＝＝＝＝

### 03年度の個別報告スタート

第1回目である03年度の事業報告が開始されました。



#### H15-1「青少年の自立支援事業」

提案者: NPO法人かながわ就職支援研修センター

市の担当: 産業振興課

(事業者)

- ・ 「青少年の自立支援フォーラム」の実施。「就労支援コース」「職業コース」の実施。04年12月19日に終了。
- ・ 若者の迷いは何か。適性に疑問を持っている。適職診断を行うことで、やりたいことがみつかったという参加者がいた。

#### H15-2「やまと太陽光発電設備設置プロジェクト」

提案者: やまとエコデザイン会議

市の担当: 環境総務課、契約管財課

(提案者)

- ・ 市役所のキャノピー上部に太陽光発電設備を設置できた。
- ・ 行政と話し合うことができたのも大きな成果だった。

(環境総務課)

- ・ エネルギー問題が取り上げられているところ。この事業を基礎の環境教育に役立てていきたい。



#### H15-3「地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業」

提案者: 渋谷中学学校開放管理運営委員会、渋谷きんりん未来の会

市の担当: 生涯学習センター

(事業者)

- ・ スタッフ自身が主体的に盛り上げていこうという意識が高まってきた。成長してきていると思う。
- ・ 事業の盛り上げということでは達成できたのではないかと考えている。

(生涯学習センター)

- ・ 3者の協働がうまくいったのではと考えている。
- ・ 利用者は、年間 23,000 人に達した。



### H15 - 1 ~ 3の質疑応答

< H15 - 1 に質問 >

Q: 産業振興課の意見は。

A: 事務局の対応が遅れたことにより欠席となった。

意見: 両者がきちんと出てきて説明をすべき。趣旨を伝えて出席されるようお願いしたい。



## &lt; H15 - 2 に質問 &gt;

Q: 太陽光で発電された電気は市役所のどこで使われているのか。どれだけ節約できたか。将来に向けてのビジョンは。

A: 電気は庁舎に引き込み使用している。全体の0.1%程度。将来の展望はまだ検討していない。

意見: シンボルとして終わるのではなく、実用的なものとして活用できるようご検討ください。

## &lt; H15 - 1 に質問 &gt;

Q: 来年度の自立支援事業はどのように考えているか。講師の謝礼はどうなっているのか。

A: 事業としては継続してやっていきたい。謝礼に関していえば、外部講師には謝礼が出るが、内部の講師にはでないということがあり、不満が残っている。

**H15-4「渋谷(南部地区)土地区画整理事業における事業幼稚の景観美化事業」**

**提案者: NPO法人ラブサポートセンター**

**市の担当: 事業管理課、情報政策課**



(事業者)

- ・ 全市民には広報で伝えた。高座渋谷に暮らす人にはチラシを配布した。のべ3人が利用したが、残念ながらラブの運用にはいたらなかった。
- ・ 市民の参加がない現状。今後継続し、花を見てもらって市民の参加を促したい。

(情報政策課)

- ・ ラブをからめられたらという思いがあったが、実際に利用された方が市民カードをもっていないという現実があった。
- ・ 地域のニーズにいたらなかった。広報を使い啓発していきたい。

(事業管理課)

- ・ 空地の有効活用について事務所でも考えていたところ。市民の参加は少ないが、今後とも続けていきたい。

**H15-5「大和市の青少年に関する意識調査」**

**提案者: 共育ちプラザ～まんまの自分**

**市の担当: 青少年センター**

(事業者)

- ・ 子ども参画が前提で事業を開始。大和高校の協力を得て「青年部会」を設けることができた。
- ・ 調査アンケートの作成中。(5月に完成)
- ・ 先生やPTAなどの横のつながりで大人の調査委員をお願いした。
- ・ よかったことは、子どもたちの意見を聞き、感じ方・感性・捉え方・価値観などを知ることができ、勉強になった。
- ・ 高校生が3年生になるので、継続の工夫が必要であると感じている。

(青少年センター)

- ・ 市民の力でアンケートづくりから意見交換まで、尊重してつくれたことを評価している。



**H15-6「生涯学習センターホール、リフォーム検討プロジェクト事業」****協働事業者:生涯学習センターリフォームプロジェクト検討会****市の担当:生涯学習センター**

(事業者)

- ・ 興味がある人・文化活動をしている人・専門家がそろい、知恵を出し合えたことがよかった点である。
- ・ 先日、市長に報告書を提出できた。
- ・ 結果、ホールのリフォームには約5億円の費用がかかるということがわかった。あとは市長の決断ということになる。



(生涯学習センター)

- ・ 日々ジレンマだった。古い、使いにくいということはいくわかっていて、これにより、市民芸術家の市外流出も起きていていると思う。
- ・ 検討していただいたことで、今後の予算確保の後ろ盾ができたと思っている。

**H15 - 4 ~ 6の質疑応答**

&lt; H15 - 5 に質問 &gt;

Q: 子どもの意見は貴重である。それはどうなっているのか。どんな風に生かされるのか。

A: 子どもが自由に話せるようにと、大人の参加は限定してきた。子どもの意見はまとめたものを子どもたちに確認してもらい、大人(作業部会)に報告するというを行った。

**H15-7「子育て家庭サポート事業」****協働事業者: NPO法人ワーカーズ・コレクティブ チャイルドケア****市の担当: 児童育成課**

(事業者)

- ・ 利用者が増加している。そのため正会員を増やす工夫が必要であると考えている。
- ・ ホームページにアクセスするのも大変ということで、こちらも検討しなければならない。

(児童育成課)

- ・ 他市で実施しているファミリーサポートセンター事業に匹敵し、子育て支援として大きな役割を担っていただいていると思っている。

**H15-8「移動制約者の外出介助サービス事業」****協働事業者: NPO法人ワーカーズ・コレクティブ ケアびーくる****市の担当: 障害福祉課**

(事業者)

- ・ 「セダン型特区」になったことで、会員の持ちこみ車が使用可能になった。
- ・ 市の福祉車両が廃止されるということで、車の維持管理、安心安全のやめの研修が今後必要であると考えている。
- ・ 利用は拡大している。
- ・ 全国のモデル事業となっている。



(障害福祉課)

- ・ 法を変える力になったという意味で重要な事業。
- ・ 民間で伸びてきていることから、市の福祉車両は縮小の方向にある。
- ・ 市がどんな形で仕組みづくりをしていけるか共に考えていきたい。

### H15-9「人工透析者ならびに身体障害者、高齢者の通院・外出支援サービス事業」

**協働事業者: NPO法人大和市腎友会**

**市の担当: 障害福祉課**

(障害福祉課)

- ・ 協働事業となったことで、知名度・信用度が広がった。近隣市町村への働きかけを行うと共に、ネットワークを利用して医療機関の結びつきを考えていきたい。
- ・ 市としては、防災対策を含めた仕組み作りを考えていきたい。

### H15 - 7 ~ 9の質疑応答

< H15 - 8 に質問 >

Q: セダン型特区とは。

A: 構造改革特区のひとつ。セダンで人を送迎するのは、いわゆる「白タク行為」であったが、特区になったことにより認められることとなった。80条許可車両として車にはステッカーを貼っている。

< 質問 >

Q: 人的ネットワークを事業にしている方にお聞きしたい。悩みを聞いたり答えていくにあたっての研修プログラムはあるのか。

A(15 - 7): 専門家ではないということが前提。共通して守ることにしているのは、相手の気持ちにそって行うということ。まず受け入れて、信頼関係が生まれれば意見を言うようにしている。

A(15 - 8): 接客態度は研修している。しかし、利用者のあらゆるものを引き受けるのは結果として気持ちが重いものになる。グチは聞くようにしているが。

＝＝＝＝＝ ステップ4: 市民活動推進補助金事業報告 ＝＝＝＝＝＝

### 市民活動推進補助金事業報告スタート

協働事業報告に引き続き、「市民活動推進補助金報告」のスタートです。

まず、補助金選考委員の委員長、平塚委員から

- ・ 補助金制度のスタートが04年10月で、まだ1年もたっていないこと。
  - ・ いろいろ勉強していきたい。
- という挨拶がありました。

補助金事業の報告は、推進会議・中村委員により進められました。

補助金を受けた方々からは、補助金を何に充当したか、補助金を受けてよかったことなどが聞かれました。







### めばえ1「平成17年度版 手で読む点図日めくりカレンダー」

補助事業者:点図サークル オーロラ (補助金額:3万円)

- ・ 日めくりカレンダーの作成に補助金を利用した。
- ・ 市内の各センター(ボランティアセンター、大和市民活動センターほか)に現物を置かせてもらい、利用者が増えた。
- ・ 補助事業として行ったことで、たくさんの協力が受けられ、活動が広がった。ボランティアも3人増えた。
- ・ 他の団体からの依頼(カラオケの歌詞の点図化)もあり、活動が広がっている。

### めばえ2「地域福祉サービスの拠点の創出」

補助事業者:NPO法人ひよどり (補助金額:5万円)

- ・ メンバー28人の研修に利用した。
- ・ 事業を進めるにあたって、事前の研修の実施に資金的な安心感が得られた。
- ・ ランチタイムサービス(引きこもり対策、入浴に対する不安)の実施。気軽な外出先としてPRしてきた。
- ・ マイクアプランの作成勉強会を会員が実施。ひよどりとして地域に広めていきたい。



### めばえ3「スポーツ医学及び栄養学講座」

補助事業者:NPO法人地域スポーツ倶楽部リアライズ (補助金額:5万円)

- ・ バスケットボール教室とともに父兄・指導者に向けた、ケガ防止のための体づくりと、ウォーミングアップの方法、運動中の給水量ほか人格形成等の講座に利用した。



### はぐくみ1「コミュニケーションサポート事業」

補助事業者:NPO法人カウンセリングコミュニケーションサポートセンター (補助金額:17.5万円)

- ・ 子育て心育て講座、カウンセリング基礎講座の実施に補助金を利用した。
- ・ 多くの市民の方に喜んでもらえる取り組みができ感謝している。

### めばえ1~3、はぐくみ1の質疑応答

<めばえ3に質問>

Q:補助事業の栄養学講座の部分については。

A:水分補給、試合前の栄養の採り方、児童への栄養の採り方などについて講座を実施。報告書に記載してもらいたい。



## はぐみ2「視覚障害者 パソコンサポートALT(オルト)」

補助事業者:視覚障害者対象XPノートパソコン講習 (補助金額:17万円)

- ・ パソコンの立ち上げと同時に音声ソフトが起動するよう設定されたパソコンの購入。
- ・ 全盲の受講者がネットを使って新聞が読めるようになった。起動から終了まで受講者がすべてを行うことができ喜ばれている。
- ・ このパソコンを有効に生かした講習を継続させたい。

## はぐみ3「健康増進配食サービス事業」

補助事業者:NPO法人シニアネットワークさがみ (補助金額:17.5万円)

- ・ パンフレットの作成配布に利用した。(1,000部のカラーパンフレット)
- ・ このパンフレットの配布により、地域を広げていきたいと考えている。

はぐみ4「つるま自然の森 <sup>つくる</sup> tuchool」

補助事業者:リーフパイ (補助金額:17.5万円)

- ・ つるま自然の森は、なかなか市民にも知られていなかったが、事業を通じ知られるようになってきた。
- ・ ヒノキ林の間伐から間伐材の有効利用まで、子どもたちと一緒に考え行い、自然の中での活動をひとつの体験として味わってもらった。



## はぐみ5「インドシナ難民定住者を対象とした相談支援活動」

補助事業者:NPO法人インドシナ難民定住援助協会 (補助金額:17.5万円)

- ・ インドシナ難民定住者とその家族を対象に、月1回の専門家による相談を通訳付きで実施した。相談は110件にのぼっている。スタッフの増員が課題。
- ・ 協力いただける弁護士が2人になった。

## はぐみ4～8の質疑応答

&lt;はぐみ7に質問&gt;

Q:相模原市では、市民が森を大事にしている。財団とのつながりはあるか。

A:個人的には入っている。

&lt;はぐみ6に質問&gt;

Q:広報活動に力を入れるということだが、パンフレット以外では、どのような広報活動をしているか。

A:社協のひまわりサロンに配食をさせてほしいと声をかけている。自治会の老人クラブにも声をかけている。

Q:補助金はパンフレットですべてを使ったのか。

A:パンフレットの他に、毎日のお弁当のお知らせと申込み用紙の紙代と印刷代に使った。



＝＝＝＝＝＝＝＝＝ ステップ5:参加者の意見交換 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

### 参加者同士の意見交換

ボードに貼られた参加者によるメッセージ・アドバイスを、市民活動課の鈴木さんがピックアップし発表しました。その後、それぞれに挙手をしていただき、意見や感想の発言がありました。

### <参加者の意見・感想>

#### 協働事業の展開について

- ・ 共通の課題として評価は行ってよかったと思うが、定着させるだけではなく、この後の発展的な展開をどうすべきか考えなければいけない。市の担当課もひとつの課だけではなく、他の課とも協力してやっていけないか。
- ・ 市民同士でつながっていくということになるが、行政はいかにかわりサポートできるのかということである。
- ・ 生涯学習センターのホールリフォームについて、観念的な否定論から抜け出て、具体的にどのようにできるのか。市民が参加して具体的な可能性の検討が必要。そこまで踏み込んでいけるシステムが必要ではないか。
- ・ どのように協働できるか、模索の段階である。熟成させるには時間がかかるであろう。行政が発展させるためには成功例の積み重ねが必要ではないかと思う。
- ・ 防災対策課は人的な協働ができなかったのを反省している。今年は新しいスタイルとして個々に顔を出していきたい。そこでできることを考えて生きたいと思っている。
- ・ 発展性を考えれば、この場に出てきていない団体も共に育てていく方法を考えなければならないだろう。
- ・ 自主防災会より小さなグループへの提案に対して市が何かできるか。
- ・ 災害時の要援護者の名簿作りより、10人のグループ作りが先ではないか。
- ・ マンション等の自治会に加入していない方の問題や、プライバシーの問題がある。
- ・ 自助には限界がある。行政と市民の連携性がうまくいっていない。
- ・ 行政サイドの横の関係ができないかぎり、トータルな連携をしながらの解決は難しい。
- ・ 協働事業については、庁内でも温度差がある。庁内の協働ワーキンググループと定期的な会合を持ち、腹を割って話すことができないのか。
- ・ 担当課を決めるときにも推進会議が関わり、最も適した担当課と話すことができるようにしていきたい。
- ・ 協働事業は皆が得をしなくてはいけない。行政も行政としてのメリットがなくては。得とは何か。市のお金を使わなくても可能なこととは。提案のポイントとして三方(提案者、市民、市)が得をすることを考えていかなければいけないだろう。
- ・ 報告会の内容として盛り込みすぎではないか。発表し切れていないように感じる。
- ・ 協働事業も三年目となった。実り多きものにしていくには、いまが曲がり角なのだと思う。どうしていくのはいいかを考えなければならない。



## 補助金事業について

- ・ 平塚の市民ファンドの報告会では、事業を紹介する模造紙を作成してもらい報告を行った。
- ・ 報告会は大切なものなので、次回は、協働事業とは分けた方がよいと思う。
- ・ 発表時間が短ければ、短いほど、事前の準備・発信の材料づくりが重要になる。

＝＝＝＝ ステップ6：協働事業提案募集・補助金申請について ＝＝＝＝＝

### 提案募集と補助金申請説明

2005年度、第3回目の協働事業提案の募集についてと、第2回目の市民活動推進補助金事業の募集について事務局からの説明です。

### 協働事業提案募集

受付期間：4月1日(金)～5月31日(火)

提案書式等の書類は市民活動課で受け取ることも、ホームページからのダウンロードも可能になっています。

<http://www.city.yamato.kanagawa.jp/katudo/suishinkaigi/jigyo/index.html>

### 協働事業提案相談会

(拠点の運営委員会 副会長 関根さんからのお知らせです)

協働事業提案に関する相談、提案書の書き方などの相談会を開催します。

場所：大和市民活動センター

日時：第1回 / 5月8日(日) 13:00～

第2回 / 5月13日(金) 10:00～

### 市民活動推進補助金申請

受付期間：4月1日(金)～5月31日(火)

提出書類等については市民活動課でお聞きいただくか、ホームページをご覧ください。

<http://www.city.yamato.kanagawa.jp/katudo/kikin/kikin-top.html>

今回の報告会&説明会は内容も盛りだくさんでしたが、多くの方からの意見・感想が聞かれ、予定の時間を大幅に超えての終了となりました。

今年で3年目を迎える協働事業の制度。定着そして発展に向けて、さらなる力を蓄える必要が出てきたといえそうです。

行政の皆さんの協力はもとより、市民のやる気が“新しい公共”に変化をもたらすものを考えます。共有できる場に立って、共に育ちながら、一緒に“新しい公共”をつくっていきましょう。



## ～アドバイス・メッセージボード～

事業報告会当日、各事業の報告を聞きながら、疑問に思ったことや、活動への熱いメッセージをふせん紙に書き出していただきました。

### (協働事業)

#### H16年度提案事業

## H16 - 1 いざという時のお隣近所

### アドバイスカード

- ・災害対策は行政と民間が協働して行う、もっとも典型的な例。各地での教訓も含めて全市のネットワークの構築に行政も積極的に協力すべき。
- ・とても大事な活動だと思います。安全教育という枠で、小中学校の校外委員会との連携はどうでしょうか。
- ・今後、協働事業者がともにネットワークを広げる工夫がより期待されます。
- ・具体的な協働事業は広報に関するものであるが、その効果はどうであったか。
- ・防災対策課へ 市民の防災活動と協力する具体的なアクションをしっかりとってください。

### メッセージカード

- ・高齢者・子どもなど災害弱者といわれる人たちに「いざ」というときどう対応するかの啓発活動を大いに期待しています。
- ・やまと災害ボランティアネットワークと自主防災組織の関係、バランス、協調について、担当課としての考え方の整理が課題ではないか？

## H16 - 2 悪い大人に負けないための法律講座

### アドバイスカード

- ・参加した子どもの感想などを「成果」の欄に書くよりも分かりやすいと思います。
- ・意外性や面白そうな内容なので、活動状況や事例などに関して情報公開(HP)してほしい。そうすることで活動しやすくなるのではないのでしょうか。
- ・悪い大人に負けないための・・・という事業名がよくないのではないのでしょうか。子どもに対して大人を悪いと示してしまうのはおかしい。やっている内容はとても必要でよいものだと思うのに残念です。子どもにとって大人は、何かを示していける者であるはずで。
- ・「校長会での紹介」を、より理解を深めるとのことで、事業者が説明する場を設けることは？
- ・教育委員会指導室は、「間接的協働」といって遠慮しておられましたが、立派な協働の役割を果たしているので遠慮せずに、積極的に取り組んでください。
- ・学校行事を考える際、これは校長会ですか。その資料に強かに協働提案している団体を推していく。広報の充実を図れば、双方にメリットがあると思う。コーディネーションとイマジネーションの広がりを。

### メッセージカード

- ・今後、各地で試みられ、子ども達の間で話題になることが楽しみです。
- ・指導室を通さずに、直接行政書士会と各学校長が協定を結ぶことが出来る仕組み作りの検討が必要ではないか？



## H16 - 3 CAPプログラム提供事業

### アドバイスカード

- ・教育委員会、学校長等権限の範囲などで難しい問題もあるが、よりよい教育のためにより柔軟な対応を考えることはできないか。
- ・大人を対象にした活動が難しそうですが、自治会とか地域の団体と組んでみるとかはいかがでしょうか。
- ・CAPのメンバーが直接指導しないと効果が現れないのか疑問が残る。CAPメンバー 教職員 児童・生徒のシステム確立に向けての検討が必要ではないか？

### メッセージカード

- ・各協働事業者の役割が明らかになったというご感想が興味深いものでした。
- ・**質**CAPが「学校教育での協働事業になじまない」理由を整理して教えてください。
- ・**質**とても必要なプログラムだと思います。大人用プログラムワークショップが難しいのはなぜ？
- ・指導室を通さずに、直接CAPひまわりと各学校長と協定を結ぶことが出来る仕組み作りの検討が必要ではないか？

## H16 - 4 大和市男女共同参画に関する市民意識調査

### アドバイスカード

- ・大変な事業をお疲れ様です。ぜひ成果を見たいです。ただ調査サンプルが「市民」と「女子大生」が混在してやや女性の方に偏りが出ていませんか？
- ・調査回答(収)率が市全体と聖セシリアで大きな開きがある。このことから今後の市の調査実施要領としては、が学校や企業などクローズな組織母集団を活用していくことも一考に値すると考えます。
- ・調査結果は、どのように公表・活用されるのか。プロセスなども含めて公開した方がよいのでは。
- ・年齢、職業など、あらゆる層の人々をある程度網羅したものにすることが必要なのでは。
- ・女子短大を活用することの必然性が分からない。これだけの調査では何かを判断するメリットも分からない。かなり計画が甘かったのではないかと感じた。(期待は大きいので)

### メッセージカード

- ・「男女共同参画」の調査であるのに女子大が主体となっている。サンプル数も女子大の比率が多すぎるのではないか？
- ・これで終わりではなく、引き続き、市内短期大学との連携(学官協働)の仕組み作りの検討が必要ではないか？

## H16 - 5 協働の拠点運営事業

### アドバイスカード

- ・市民活動参加者や参加団体、行政の顔の見えるつながりを支援する(場を作る)ことが、市民活動センターの役割であり、具体的な方法について、失敗を恐れずに、実際に動いてみる(やってみる)ことが必要ではないか？

### メッセージカード

- ・市民の拠点となるためには「開かれた」メッセージを発信・受信していく必要がある。利用者の視点を持ち続ける必要がある。そういう意味で第3者評価のしくみを取り入れていかねばならないと考えている。
- ・協働提案にも子どもとしてくれるものが多々ある。この時代に「子ども」というテーマでのネットがはれるような活動(イベント)をしてほしい。必要。



## H15年度提案事業

## H15 - 1 青少年の自立支援事業

## アドバイスカード

- ・カウンセリング等参加するきっかけづくりが重要であると思われ、その方策を検討されることが期待されます。
- ・協働事業としてのご不満とは？
- ・研修費の実費相当分の利用者負担等、経費負担の考え方についての検討が必要ではないか？

## メッセージカード

・現在多くの若者たちが「仕事に就く」ということに向き合い悩んでいると思います。キャリアカウンセリングや各種セミナーetcに参加できる若者は、支援することができますが、「ひきこもり」の若者たちをどのように、支援していこうとお考えですか？また「ひきこもり」を生み出さないように、市と協働で、小中高校へも出向き出前講座を開催するなどして、早い段階からのキャリアデザイン形成を行っていくことも出来るのではないかと思います。国も県も、各種団体もすべてが、若者については取り組んでいるとは思いますが、大和市くらい若年者支援が出来ればいいなと思います。ウイークタイズと言われるように、ネットワークを大切に信頼関係を強めながら若者を支援していくように行政も頑張らなくてはと思いました。

## H15 - 2 やまと太陽光発電設備設置プロジェクト

## アドバイスカード

- ・他の市設備などでも使ってほしい。しかし、そのためにはどの程度、活用されているか、具体的な数字にしてほしい。
- ・協働事業としては終了とのことですが、太陽光利用のみならず、もっと広い意味での環境保全活動に発展させられるとよいと思います。

## メッセージカード

- ・事業の主旨はこれからがもっともっと盛り上げていく必要のあるものと考えます。新規も含め継続した取組みを期待します。

## H15 - 3 地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業

## アドバイスカード

- ・地域に根ざした学校開放。これを利用する人たちが、緊急時の対応策についての危機管理の体制をはかり、利用者に対して周知できるようにしてほしい。

## メッセージカード

- ・モデル事業として他の地域への横の展開を期待したい。



## H15 - 4 渋谷(南部地区)土地区画整理事業における 事業用地の景観美化事業

### アドバイスカード

- ・大和市では、「街づくり賞」があります。応募して見ては？
- ・市民が積極的に参加しないのでは協働事業として成り立たない。皆で環境美化を創るという意識を高める活動が必要ではなからうか。周辺住民が最も恩恵に浴するのであるから、協力の輪を広げていくのが先決と思う。
- ・食用の収穫は望まないが、せめてドライフラワーにするなどの花の活用が認められないのだろうか？植えるだけという制約は強すぎて希望者が増えない原因と思う。

### メッセージカード

- ・市民参加が十分でなかったとのことですが、事業としては始まったばかり。ぜひ継続して取り組んでいただきたい。
- ・市は、土地を提供するだけでなく「協働」について考えてほしい。荒地で提供されても花壇に出来ない。

## H15 - 5 大和市の青少年に関する意識調査事業

### アドバイスカード

- ・不登校児などの一部にも意見を持っている人がいると思うので、中高校生に限らなくてよいのではないか？子どもたちの意見でつくっていくことは必要なことだと思いました。
- ・今後は、意識調査の段階に入るようですが、インターネットによる調査は考えられないでしょうか。すべての若者がそういうIT環境でないかもしれませんが、プラスアルファの手段として検討されてはいかがですか。

### メッセージカード

- ・若者と大人と双方向で意見を言い合える状況を実現していただきたい。個人的に思うことは、子どもの意見がすべて正しいわけではないと言うこと。ただし、それを生かす術はあると思うので、その点を見出してください。

## H15 - 6 生涯学習センターホール、リフォームプロジェクト事業

### アドバイスカード

- ・プロジェクトのメンバーを公表してほしい。おやこ劇場は入っているか？どのようにメンバーを選定したのか？公募しなかったのか？

### メッセージカード

- ・市民が利用しやすい拠点づくりとしてとても有意義だと思います。5億円の予算が可能でなくともやれることから進めてほしいと思います。
- ・600はほしいが中途半端な数。リフォームでもよいがなお各団体より意見を聞きよいものに。
- ・質リフォームするのはよいけれど、耐震性などの安全性は大丈夫ですか？





## H15 - 7 子育て家庭サポート事業

### アドバイスカード

### メッセージカード

- ・他市等で行われているファミリーサポートセンターは、行政の力が強く作用しているように感じている。(厚生省の思い?)民の力として頑張してほしい。応援しています。

## H15 - 8 移動制約者の外出介助サービス事業

### アドバイスカード

### メッセージカード

- ・NPOにまかせて市社協の移送サービスが減少するのはよいが、それによってういた税金などはどう生かせるのか?そこが見えないとただサービスを市民に押し付けておわりになってしまう気がする。
- ・ケアびーくるで働いている方に、障害者の方はいらっしゃるのでしょうか?特に精神障害者の方であれば、働くことは可能なかと思いました。色々な方法で障害者の方の社会参加が進めばいいなと思いました。

## H15 - 9 人工透析患者ならびに身体障害者、高齢者の通院・外出支援サービス事業

### アドバイスカード

### メッセージカード

- ・災害時のケアまでを考えるのであれば、糖尿病でのインシュリン自己注射の患者のケア等も生命に関わるので、ぜひ考えてほしい。



**(市民活動推進補助金事業)**

**めばえ1 平成17年度版手で読む点図日めくりカレンダー  
製作**

アドバイスカード

メッセージカード

**めばえ2 地域福祉サービスの拠点の創出**

アドバイスカード

メッセージカード

**めばえ3 スポーツ医学及び栄養学講座**

アドバイスカード

メッセージカード

**はぐくみ1 コミュニケーションサポート事業**

アドバイスカード

メッセージカード



**はぐくみ2 視覚障害者対象XPノートパソコン講習**

アドバイスカード

メッセージカード

**はぐくみ3 健康増進配食サービス事業**

アドバイスカード

メッセージカード

**はぐくみ4 つるま自然の森<sup>つく~る</sup>tuchool**

アドバイスカード

メッセージカード

- ・ヒノキの間伐材を使って植木蜂を作るのはおもしろい企画と思います。そこでひとつ、木製の鉢に直接土を入れると約3年で腐ってきます。鉢の内側に発泡スチロールの廃材を張り付けると、長期にわたって楽しめます。
- ・今後のひろがりと事業の発表・自己財源の確保についてどう考えていますか。また、3月19日~27日の展示会の入場者数は用意したリーフレットの残部でおおよその人数は把握するなどデータとしてはとっておいた方がよいと思います。

**はぐくみ5 インドシナ難民定住者を対象とした相談支援活動**

アドバイスカード

メッセージカード

- ・今後の事業展開を考え上で、今回の補助金の役割をしっかりと受け止めていただきたいと思います。



## ～感想カード～ 参加者の声より

協働事業の内容によって、本当に必要なものと、夢を現実に変えるものがある。一つにして、協働事業というのは、無理があるような気がする。

協働事業と市民活動推進補助金事業の報告会&説明会とを分けて開催すべきだと思う。

にぎやかで、とてもよかったのですが、疲れました。点図サークルオーロラさんが大いに発展されたとのこと。うれしかったです。めばえ＝5万円でもいいのでしょうか？初めだからこそ、もっと支援されたいのでは？

実に長時間でびっくりです(はじめて)！難しく考えるか、市民活動として、必要なだと、思いをつらぬいていけばいいのか？軽やかに考える・行動するというのは、なんと難しいか。

発表時間が短いとの指摘がありましたが、せっかくプロジェクターを用意されていたので、もっと活用し、視覚・聴覚両方で表現されたほうが良いと思いました。

協働事業提案者として、他のグループの活動や市との関わりについて参考になりました。時間配分が大変でしょうが、補助金のグループとは、別でもよかったのか。(請求したい私には、参考になりましたが、時間が足りないですね。主婦には、5時以降厳しい。。。)

いろいろな協働事業の内容がわかり、大変参考になりました。

これからの「公」の創出としての多様な枠の意見が聞けて良かったです。事業を発展させる～そのための予算立て、'人とお金'は、単一では出来なく、可能性に近づく検討会や報告会が生かせる内容のひとつと思いました。



報告会を協働事業と市民活動推進補助金事業と併せて開催して頂き、大変勉強になりました。ただ、協働事業の話をお聞かせいただいて思ったことは、対象者の人数がある程度ある場合は、成立可能ですが、一桁・二桁の数ではない障害者対象はなじまないようです。また、NPO法人のようにわずかでも人件費の出るものと、まったくの無償のボランティア活動は、分けて考えていただきたいと思います。あと、すべての事業に言えることですが、継続ということが対象者に対する責任だと思います。その辺のところ、ちょっと見えてこないような気がしました。ちょっと後ろ向きの感想になりますが、馴れない私達にとって、申請から報告会までに要したエネルギーは大変でした。私達のように職人的な作業をしている者にとっては、作業時間の増加との両立は、きつーーーい。ことでした。いろいろな方に点図のことを知って頂き、また、協力を頂いて、その点に関しては本当に感謝しておりますが、上記のジレンマで、補助金等の申請に関する今後のことは、ちょっと未定といったところです。

協働事業の行政側の受け皿を如何にすべきか？もっと掘り下げた議論・検討が必要ではないか？現状では、市民からの提案に対して、窓口を指定されても、各々の部署は、本来の業務を抱えており、「余分な仕事を持ちこまれても困る」というのが本音ではないか？市民活動課の位置付け・人的充実など、必要な措置を講じる必要がある。

事業内容・団体紹介等を事前にHPにUPするなどの方法を考えるとやりやすかったと思います。何らかの形で、市民のNPO活動内容に関するニーズの調査は、単に調査するのではなく、市民が自ら必要とするNPOを選んで、何らかの資金の直接投資できる制度を作る方が良くはないかと思っています。(千葉・市川市の市民税1%投入制度のようなもの)企業でいえば、トラッキングストックのような制度と考えるとわかりやすいと思います。

協働事業と市民活動補助金の報告会も一緒にすることはいいのですが、時間が長すぎると思います。市民団体と学校が協働する上で、市民団体側が必要があって提案している内容でも、校長先生が「NO」と言ってしまうと、それまでになってしまうと思います。お互いが話し合いを出来る場と回数を増やすことが必要だと思います。また、教育委員会もその為の環境整備をお願いしたいです。



ひとつひとつの活動団体は大変素晴らしい活動内容であるが、補助金の使い方が詳しい使い方になっているか、もっと詳細な金額の内容が知りたい。また、新しく住民になっている人の中で、特に集合住宅に生活している人が、自治会に加入していない人が多く見られる。そのような人は、意識をもって大和市の情報を得ようとする限り、なにもわからないでいる人の多いことも事実である。その解決がされるべきではないでしょうか？

盛りだくさんすぎて、時間が長すぎ、やはり疲れすぎた。ステップ5での議論をもっと時間をとってもらいたい。協働事業の意義と共に、今ある行政とする協働の問題性など、もっと現場でやっている提案者や行政担当者からも本音で語り合う事が保障される事で、より協働事業も発展前進できるのではないかと思います。各事業提案者や行政担当者が個々に悩みを抱えたまま過ごして。。。。

協働の課題、必要性などなど司会・進行をしながら学ばせていただきました。一步一步、委員会のメンバーとして、解決へのお手伝い【私も学び】が出来ればと考えております。

藤沢からの方がおっしゃっていましたが、報告の仕方の工夫ももちろんですが、井戸端会議的なわいわいがやがやの時間、車座的な演出進行の工夫が必要だと思いました。「お茶の時間」というようなニュアンスでもいいのですが、もっと、ここに来ない・来られない現場のリアルな声が欲しい！これも推進委員に課せられる役目かと思えます。

協働事業については、ホームページなどで内容を見たことはありましたが、このような会に参加するのは初めてでした。皆さんの熱い思いに直接触れることが出来、また、事業報告をうかがうことが出来たので、非常に勉強になりました。報告を聞いていると、行政の横のつながりや組織に対することなど、行政が改善していかなければならない点が多くあるのかなと思いました。私は、直接、協働事業を市民の方と行ったことはありませんが、そういうときがきたときに、柔軟な対応や落とし所(という言葉は悪いのですが...)を見出せるように、日々アンテナをはりめぐらせて、協働に対する感覚を身につけたいと思いました。ありがとうございました。

よい意見交換ができたと思います。行政と協働事業について「腹を割った」意見交換が推進会議と出来たら良いと思います。補助金事業について、良いことだが補助金を出す事業か？など思うものがあつたように思います。

みなさん、本当によくやっていました。



協働事業について、市民と職員の双方から自己点検評価できたことは良かったと思います。ただ、全体として、時間が少し長すぎたように思います。もう少し、報告書等に集約するなど工夫をしてコンパクトな共有の場にできれば良かったのではと思いました。(3時間ぐらいで収められたらと思いました。)

本日の報告会は、とてもたくさんのメニューがあり、中途ハンパな印象を受けました。発表された方も、不完全燃焼だったのではないのでしょうか？勿論、私の協働事業についての事前の学習が不足していたことは申し訳なく思っておりますが、もう少し、ていねいに報告頂きたいと感じました。補助金については、委員も含めて、公開での別の報告会もしくは、報告書作成の際、ヒアリングの徹底をお願い致します。委員として、何をどう動けばよいかなど補助金を決定した責任について再考していただきたいと思えます。

協働事業と補助金事業の報告会を分けて欲しい。

プログラム盛り込みすぎ。報告について十分な意見が出せない。事前に読み込んでいなくて、理解が及ばなくて申し訳無く思う。【事前に資料を渡す日程が少なすぎ】補助金の報告会は、決算も含めた使途の妥当性も共有できると良い。報告会における選考委員の立場・位置付けがよくわからない。

「協働事業進行状況調査票」冊子及びプレゼンについて、とてもわかりづらいです。平板な文字の羅列で何が要点か不明瞭です。全般的に成果、不成果を客観的に、特に、その事業への参加者がいる場合は、その声を記載していただくと、より事業の意義が明確になると思います。また、写真等、ビジュアル面にも力を入れていただきたい。1枚でもよいので。【百聞は一見にしかず】また、2003年度事業も「2年目」としてどうなのか(変化、継続性等)をはっきり打ち



出していただければと思います。あと、「市民活動推進補助金報告」について、いまいち趣旨がわかりません。補助金使途の公開チェックなのか？さらに質問する方の中には、事業内容の査問的な指摘もありました。いずれにせよ、補助金事業報告ならば、最低限補助金使途と額は、記載した方がわかりやすくなると思います。今のままでは、協働事業報告との差異が不明です。時間は、きっちり管理してください。参加者からの意見も推進会議の委員に偏っているのでは？委員は発言するなという訳ではなく、提案者と一般参加者がいる「今日この場で」発言することを時間内にコンパクトに願います。

補助金事業報告会と協働事業報告会は別々に行ったほうがよいと思った。補助金事業報告会で公金がどのように使われたのか。問題は何だったのか。など、補助金にスポットをあてて、みんなで考え、話し合える場が欲しかった。補助金事業報告会の後[4時30分~]の場は、全く意味がない。

今日は、ありがとうございました。CAP、悪い人のように限られた年齢の子ども達へ、有用なものが、スムーズに運ぶようになればと思います。是非とも、窓口が開ければと思っています。保護者のひとりとして、出来ることは、何かと考えていますが、なかなか難しいです。市の平和・語り部も中学校でと思いながら、委員をしています。是非、この壁をこえる方法を一緒に手伝わせてください。

時間を経ることで、発見する問題点・疑問点がある。ということがわかり、さらなる新たな視点の必要性を感じた。また、「観念的な否定論」という話を聞いたとき、思考を停止させるものは、何なのかと考えさせられた。その何かを自分でも発見できたらと思っている。

各事業者の事業に対するパワーを強く感じた。補助事業決定時に関わっていなかったので、意見を言える立場ではないが、「リアライズ」のバスケット活動にあたる部分に補助金が充当されたとしたら問題があると思う。野球・サッカー等は、自主的なクラブチームでハイレベルなチームづくりをしており、疑問を感じる。種目、チームを限定せずに、スポーツ医学・栄養学の普及に努めていただきたい。行政の温度差を感じる。

事業報告の説明時間が短時間であったため、十分な報告内容を聞けなかったことから、各団体の持時間を多めに取ったほうがよいのでは？補助金事業であるために重要であると思います。全体的に時間が足りなかったと思います。

ステップ5の参加者同士の意見交換は、とても良かったと思います。(互いの意見を聞いたり、言えたりしたので。。。)

市民活動に対する補助金の使い方が、事業の内容と共に報告されました。金額はわずかでも、的を絞って補助すると、結構有効に作用し、結果が出せるものと感心しました。本当に必要とするグループを見つけ出すことも必要ですし、その効果を予測するのも大切な仕事と思います。

記録：大和市協働推進会議事務局ボランティアスタッフ・市民活動課

